



さんりんしゃ 三輪車



ニッキー

八千代市立新木戸小学校

《校長室だより》

発行：校長 寺田 好江

令和元年度 第 15号

令和元年 7月 11日

【学校教育目標】 自らの可能性を拓く子供の育成

障害者スポーツは、障害者と一緒に楽しむスポーツです！

5年生ポッチャ体験 5年生は総合的な学習の時間に「心のバリアフリー」というテーマで学習しています。7月2日（火）にはパラリンピックの種目でもある「ポッチャ」の体験をしました。千葉ポッチャ協会会長の宮坂さんが来校し、ポッチャという競技の楽しさや難しさやルールを教えていただき、最後は自分たちで審判をしながらゲームをすることができるようになりました。

ポッチャはパラリンピックの種目で、2016年のリオパラリンピックでは、日本が銀メダルを獲得した種目です。はじめは、力加減がわからなかった子供たちも、そのうち上手にボールを転がし、白いジャックボールにピタリとつけて大逆転！という場面に歓声が上がって盛り上がりました。ルールがわかると応援にも力が入ります。いまから、東京パラリンピックを応援する姿が目に見えます。



宮坂さん



5年生アンプティーサッカー体験 「アンプティー」とは「切断」という意味で、アンプティーサッカーは切断障害をもった選手がプレーするサッカーです。普段は義足で生活している金井さんから、膝の病気で足を切断しなければならなくなった時のことや、アンプティーサッカーと出会った時のこと等、色々なお話を聞き、実際に杖をつけてサッカーを体験しました。

はじめは「足がないのにサッカーをするの？」と思っていた子供たちも、実際の試合の映像で、ボレーシュートをする姿等を見て、思わず「おー！すごい！」と声をあげていました。

体験では、はじめ杖をつけて歩いたり、走ったりすることも大変そうでしたが、ゲームとなるとみんな夢中でボールを追いかけしていました。ゴールキーパーは手の切断障害をもった方がするという事で、片腕を体操服に入れて防いでいました。

最後に「障害者スポーツは障害者がするスポーツではない。今みんなと一緒にアンプティーサッカーをしたように、障害者と一緒に楽しむスポーツです。」ということと「障害があっても、少しの手助けでみんなと同じようにできる事は、たくさんある。」という金井さんの話に引き込まれました。



金井さん



キーパーは、片腕でシュートを防ぎます

【5年生のボッチャの感想】

- ボッチャはテレビのCMで知っていて、今日実際にすることができてうれしかった。ルールも、わかりやすかった。初めてボールをさわった時は、重くて中がじゃりじゃりしていた。中身はビーズ。ゲームをしてみると意外と難しくて、なかなか白のジャックボールの近くに投げられなかった。来年の東京パラリンピックでは、ボッチャを応援したいと思った。
- ボッチャはわたしたちでも楽しめる競技だとわかった。これまではオリンピックばかり見ていたけれど、来年はパラリンピックも応援したいと思った。
- ボッチャは障害がある人たちのためにヨーロッパでつくられたスポーツだとわかった。体が動かなくて、車いすに乗った人でも、滑り台のような形をしたランプという道具を使えば一緒に楽しめる。そこがいいと思った。
- 3試合をして1回しか勝てなかったけれど、とても楽しかった。ルールもわかったので、家族にも教えてあげたいと思った。また、ボッチャをやりたいと思った。
- とても楽しかった。ジャックボールの近くに、自分の球が止まった時の達成感が、とても気持ちよくて最高だった。
- ジャックボールに、自分のボールが相手のボールをはじいてぴったりついたときは、何とも言えないくらい気持ちがよかった。特に力加減が難しかった。でも、友達と作戦を立てたり、協力したりして、最後に逆転できる可能性があるゲームなので面白いと思った。家でも、小さいボールを作って、ミニボッチャをやってみようかな？と思った。

【5年生のアンプティーサッカーの感想】

- 杖は相当軽かったけれど、歩くのや走るのだけでも苦労した。ボールはうまく蹴れなかった。もし、自分が障害を持ってしまったら、色々な支えがほしいから、私は障害者の支えとなれるようにしたい。
- はじめは歩くだけでも疲れたけれど、試合になってからはすらすら走れるようになってきたから、もっとやりたいと思った。一度、本物のアンプティーサッカーの試合が見てみたいと思った。
- アンプティーサッカーにもワールドカップがあると聞いて、びっくりした。目の見えない人たちのサッカーがあったり、自分が知っているサッカーだけではないことも今日わかった。
- 今日は5分間の試合をしたけれど、足も腕もとてもつらかった。本物の試合は25分間の前半・後半で、コートも広いからとても大変だと思った。
- はじめはなかなか進まなくて杖から手が離れたり、転びそうになったりした。手も杖を持つのに必死だったけど、もっとつらかったのは足だった。でも、やっているうちに夢中になっていて、気が付くと終わっていた。とても楽しかった。アンプティーサッカーは、障害者とできるスポーツなんだという事を、お母さんやお父さん、たくさんの人に伝えていきたいと思った。
- 障害者スポーツの体験会があったら、色々体験してみたいと思った。障害を持った人と一緒にスポーツができるのは楽しいと思った。これからは困っている人がいたら声をかけたり助けたりしたい。